

緑の茶畑と数々の世界文化遺産
海浜リゾートと2000mの高原

インド洋に浮かぶ楽園 スリランカ

2004年サイクルスポーツ海外自転車ツアーはスリランカを走る。
海沿い、山岳地帯、水田地帯と変化に富んだ道をツーリング。
全行程8日間のうち、6日間のサイクリングコースを本誌・松崎の下見レポート。



スリランカの人々の 笑顔に会いに行く旅

「スリランカを自転車で行く旅の
魅力は、何だろうか。」
熱い日差しに焼かれながらペダル
を踏みつつ、思う、目の前に続くあ
まり状況の良くない路面。後ろから
追い抜いていく車はいやというほど
クラクションを鳴らす。はたして、
ここを走って楽しいのだろうか。

小さな村を通るときのこと。道は
たに立つ男たちがこちらをじっと見
ている。「やだなあ」そう思いつつ近
づいていく。これではいけない。ポ
クはふと、片手を挙げた。「ハイ」。
男たちが固まったのが分かった。し
かし、次の瞬間、その彫りの深い、
激しい顔がほどけ、みんなが笑顔で
「ハイ」と手を挙げた。

次のページで詳しく紹介するよう
に、スリランカの魅力は数多い。ピ
ーチから山岳地帯まで変化に富んだ
地形をつなぐ道、仏教遺跡や植民地
時代の建築、スパイスの効いた奥深
い味の料理の数々、ビールが70円ほ
どという安い物価などなど。けれど
も、ほくが感じたいはんの魅力、
それは、人々の温かさだった。
手を挙げて、声をかけてみよう。
そして、話をしてみよう。大人から
質問攻めにあい、子供たちに自転車
に乗せてとねだられ、追い抜く車に
乗った若者たちの声援を受けるだろ
う。そして、スリランカでこぼこ
道に慣れてくる旅の終わりに、人々
のすてきな笑顔が、大切な思い出と
して心に残るに違いない。

ラブリー・ティーファクトリーの先、ヌワラ・エリアへは茶畑のなかに延びる山道を進む。目の前には光り輝く緑のじょうたんが広がる



第18回 サイクルスポーツ 海外自転車ツアー コース発表



●スペック フレーム/リッチー・ブレーカウエイ、WCSスチール フォーク/カーボン メーンコンポ/シマノ・アルテグラ ハンドル/リッチー・コンプ チェーンホイール/トラバティブ・ELITA 53×39T スプロケット/12~26T (9S) リム/アメリカンクラシック タイヤ/シュワルベ・ステルビオ700×23C サドル/フィジーク・ナイゼン 本誌実測重量/8.4kg (520mm)

本誌・松崎が選んだ ツーリング機材

苦勞して運んだ愛車が壊れていたら、ツーリングを楽しめない上に、気持ちも落ち込んでしまうに違いない。そんなトラブルをさける輸送のポイントを説明。自転車を入れるのにいちばん手軽なのは自転車配送用の段ボール。自転車ショップに頼めば入手できるだろう。ほかにも、厚手のパットの入った海外用輸送袋や、トランク型のハードケースなどもある。ケースが決定したら、実際に自転車をたたんで入れてみよう。注意すべきはエンド部分。特にリヤエンドはトラブルが起きやすいので、リヤディレーラーははずしておくのが無難。そのままではフレームに傷が付いてしまうので、布などで包んでテープで動かないよう固定する。ちなみに、ガムテープは何かと使い道があるので、巻き取って持って行くのがお勧め。ホイールからクイックを外し、フレームとホイールの間にエアパッキンや段ボールを挟み、ストラップなどで固定。箱のなかで自転車が動いてしまうならば、詰め物をして動かないようにする。なかにはウエアをいれて固定する人も。輸送中、かなり手荒く扱われてしまう可能性が飛行機での輸送。「これで大丈夫」と思っても、そこからさらに用心して準備するのが安全に自転車を運ぶコツだ。



A 分割されたシートチューブとトップチューブをつなぐのは、長めにカットされたシートチューブ。2カ所にあるボルトを締め込んでシートポストを固定する **B** ダウンチューブにある分割点を押さえるクランプバンド。ワイヤ類はアレックス・モールトンの分岐式自転車などでも使用されるねじ式のアクセサリで分離、脱着する **C** 専用キャリーバッグに収まったアレグロ。エアパッキンや布をはき込み詰めれば傷や破損対策はさらに向上する **D** 専用キャリーバッグはコンパクトサイズ。タテ2本、ヨコ1本のストラップがなかの自転車のばたつきを抑えるとともに、チャックが不意に開いてしまうトラブルを防止。タテ66cm×ヨコ74cm×深さ23cm。専用キャリーバッグ価格：税込み2万3100円税別アキボウ



スマートに持ち運べる本格的ロードバイク ダホン・アレグロ

税込み完成車価格/20万1600円
世アキボウ☎072-258-4391 www.akibo.co.jp

本誌・松崎が今回の海外ツーリングで使用したのが、ダホンの「アレグロ」。700Cのロードバイクフレームを、2分割できる画期的なバイクだ。フレームをデザインしたのは、フレームそして数々のサイクルパーツをプロデュースしている「USバイク界の巨匠」トム・リッチー。4mmと5mmのアーレンキー2本で分解・組み立てが可能。慣れれば、分解・組み立ては10~15分ほどでできるだろう。気になる重量は折りたたみ自転車にもかわからず、8.4kg(編集部実測、サイズ520mm、ペダルなし)。別売りの専用のキャリーバッグに収めれば、スマートに運ぶことができる。スリランカの道の状況は決してよくはなかったが、ほどよくしなるスチールフレームとカーボンフォークのおかげで、長時間のライディングも苦にはならなかった。輸送作業も簡単で、コンパクト。走行性能はロードバイクそのもの、という、まさに「旅するサイクリスト」のためのマシンだ。